

高校生ものづくりコンテスト2010東北大会【山形大会】 『木材加工部門』

山形県立新庄神室産業高等学校
事務局 阿部 稔

1 はじめに

本大会は、茨城県で開催された「第10回高校生ものづくりコンテスト全国大会」の代表選手選考会を兼ねて開催した。東北大会を運営するにあたり、県内建築系設置学科6校で実行委員会を組織し、前年度から準備を進めてきた。以下に概要を述べる。

2 大会概要

1) 大会期日及び会場

期日 7月29日(木) 選手・引率者打合せ会
30日(金) 開会式・競技・閉会式
会場 山形県立山形職業能力開発専門校

2) 参加校

南部工業高校(青森県)、能代工業高校(秋田県)、久慈工業高校(岩手県)、石巻工業高校(宮城県)、福島工業高校(福島県)、山形工業高校(山形県)、山形電波工業高校(山形県)、以上6県から7校7名の選手が参加した。

3) 課題

第10回ものづくりコンテスト全国大会と同等の「小屋組み」の課題を、支給されたスギ材と指定された工具を使用して、3時間の競技時間内で完成させる。審査は、「墨付け・部材加工・組み上がり」の細部配点項目からの減点法による。

4) 実行委員会

県大会終了後に実行委員会を開催し、県大会の総括と東北大会に向けての改善点について検討した。また、大会運営や競技方法の確認と、審査方法のリハーサルを行い万全を期した。

5) 審査

県大会と同様に、外部審査委員(山形職業能力開発専門校教員4名、山形建築組合員2名)と県内建築系設置校教員6名、合わせて12名で審査を行った。東北大会では、出場選手の競技レベルが伯仲していることにより、各部材の作業終了時間が集中し、審査に支障が生じることが懸念された。そのため、山形工高生の補助員を加え審査のリハーサルを重ねた結果、本番では大変スムーズに審査をすることができた。また、審査結果のデ

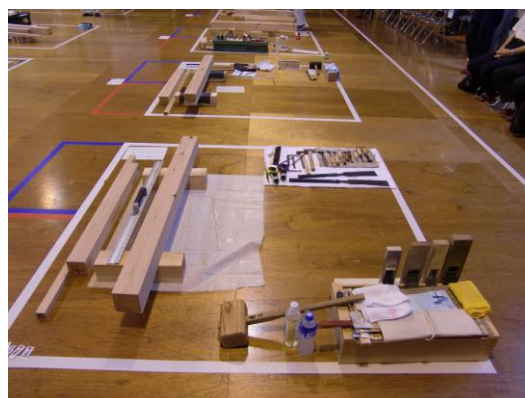
ーター処理については、「墨付け・加工・組み立て」のそれぞれの作業が終了した時点で、得点を入力したため、審査結果発表までの時間は、県大会に比べ大幅に短縮することができた。

3 大会結果

今大会の競技課題は難易度が高く、墨付けから部材加工の総合的な精度の高さが順位を左右した。参加選手は、東北大会への十分な練習と対策を積んでおり、高いレベルの大会となった。

なお、成績上位者は以下のとおりである。

優勝 青森県立南部工業高校 河原木 陽太 君
(全国大会出場)
準優勝 秋田県立能代工業高校 佐々木 健吾 君
第3位 宮城県石巻工業高校 井上 裕司 君



小屋組部材と工具

4 おわりに

東北大会の運営に関しては前年度から、山形職業能力開発校の絶大な御支援と、実行委員会の先生方の周到な準備により、成功裏に終わることができた。まずは、先生方の御協力に感謝したい。

また、東北大会で感じたことは、本県選手のより一層の技術力向上を図る対策の必要性である。他県では、県大会を2年次後半に実施して、東北大会の出場者を選出し、その後、半年間かけて東北大会の強化策に取り組んでいる例もある。本県においても、全国大会で上位入賞できる選手を育成するための方策を検討しなければならないと考える。